

里帰り分娩の母子保健学的研究

玉田 太朗,* 安部 直英,* 本山 光博*
佐藤 正,* 青木 利恵**

要約：里帰り分娩の頻度は13.3%で、やや増加傾向にある。里帰り分娩群では、切迫流早産や帝王切開率は比較的少なく、分娩異常や新生児異常、児の低身長・低体重、易感染性が比較的多くみられ、明らかに父性意識の確立が遅れる傾向にある。また短時間で帰れたもの、比較的早期に帰ったもの、自動車を利用して里帰りしたものに産科学的異常が多くみられた。夫の育児休暇など、夫の協力体制が整っていれば里帰りをしなくてすむと答えたものが多く、社会制度の充実が望まれる。里帰り分娩に対する医師の態度では医学的・社会的判断によるものより、患者の希望にまかせるものが多く、個々の妊婦に適した対応の仕方が必要と思われる。

見出語：里帰り分娩、産科学的異常、母子保健、家庭保健、精神衛生、医師の対応

I 研究目的

若い労働人口の都市集中化や核家族化の進展に伴って、里帰り分娩の割合は年々増加する傾向にあると推測され、また交通機関の発達や高速道路網の設備などで、その規模も拡大傾向にあることが推定される。

医学的社会的に多くの問題を抱えている里帰り分娩について、過去にもいくつかの全国規模の調査が行われているが、必ずしもその実態が適確に把握されているとはいいがたいのが現状である。

今回、過去の調査研究を検討して見出された問題点を中心に、今まで見過ごされがちであっ

た母子保健や家庭保健、さらには精神心理的側面や対応する医師の態度などにも重点を置いて調査研究を行ったのでここに報告する。

II 研究方法

全国の89大学病院と1026の一般病・医院にアンケート調査を依頼し、67大学と435一般病・医院から回答を得た。調査対象は、1989年2月4日から2月10日の1週間に分娩となった里帰り分娩538例、非里帰り分娩3511例の計4049例と対象施設の医師502名であり、主に里帰り分娩の実態調査と医師の対応の仕方についての前向き調査を行った。さらに、大学病院に対しては、5年前(1984年)の同時期における総分娩

* 自治医科大学産科婦人科学教室

**自治医科大学附属病院産科

数と里帰り分娩数を回答してもらい、里帰り分娩の増減傾向を調べた。

また追跡調査として1984年1月から1988年5月までの期間に、自治医科大学附属病院で分娩となった里帰り分娩 547例と非里帰り分娩 386例にアンケート用紙を郵送し、里帰り分娩 228例と非里帰り分娩 170例から回答を得た。この追跡調査では、主に里帰り分娩と母子保健、家庭保健、精神衛生などとの関係に重点を置いて調査を行った。なお、今回は実家などに帰って分娩するもの全てを調査の対象とした。

Ⅲ 研究結果と考察

1. 里帰り分娩の頻度 (表1)

里帰り分娩の頻度は、大学病院13.9%、一般病・医院13.2%、平均13.3%で施設による差はみられなかった。

2. 里帰り分娩の増減傾向 (表2)

里帰り分娩数は5年前に比べて、絶対数および総分娩数に対する割合ともに増加している。大学病院における過去の調査①10.6%(1980)¹⁾ ②8.5%(1980～1982)²⁾ と比較しても、里帰り分娩の割合は増加傾向にあると思われる。

3. 里帰り分娩と産科学的異常

1) 里帰り分娩との比較

①妊娠中の異常 (表3) : 妊娠中の異常は、里帰り群46.6%、非里帰り群45.9%と大きな差はないが、切迫流早産は里帰り群8.4%、非里帰り群13.2%と里帰り群の方が著明に少ない。その理由としては、切迫流早産、とくに切迫早産では里帰りを中止する例が多いのではないかと推測される。

②胎位異常 (表4) : 胎位異常は、里帰り群

3.0%、非里帰り群3.9%と里帰り群にやや少ない傾向がみられるが、大きな差はない。

③分娩様式の異常 (表5) : 分娩様式の異常は里帰り群19.2%、非里帰り群18.9%と全体的な差はないが、帝王切開術は、里帰り群8.0%、非里帰り群9.3%と里帰り群に少ない傾向がみられる。

④分娩時の異常 (表6) : 分娩時の異常は、里帰り群41.8%、非里帰り群36.9%、と里帰り群に比較的多くみられる。とくに、前期破水、微弱陣痛、回旋異常、遷延分娩、多量出血などが里帰り群では多くみられる。

⑤産褥時の異常 (表7) : 産褥時の異常は、里帰り群4.3%、非里帰り群2.8%と里帰り群にやや多い傾向がみられるが、大きな差はない。

⑥新生児の異常 (表8) : 新生児の異常は、里帰り群18.6%、非里帰り群18.7%と大きな差がない。しかし、新生児高ビリルビン血症は、里帰り群9.5%、非里帰り群7.1%と里帰り群に多くみられ、新生児仮死も里帰り群に比較的多くみられる。

2) 里帰りに要した時間と産科学的異常 (表9)

里帰りに要した時間は、2時間未満が27.1%、2～4時間未満が37.4%と、4時間未満が64%を占め、比較的短い時間で里帰りが行われていることがわかる。しかし、24時間以上(主に海外からの里帰り)も1.9%(9人)あり、交通機関の発達とともに里帰り分娩の規模が拡大していることがわかる。

4時間未満と8時間以上に妊娠異常が、また6時間未満と8時間以上に分娩時異常が比較的多くみられる。短時間で里帰りできる場合は、

危険を犯しても里帰りをしてしまうのではないかと考えられる。また8時間以上では、たとえ妊娠異常があっても里帰りをしなければならない理由(信頼できる医療施設がないなど)があるのではないかと推測される。

3) 里帰りに利用する交通機関と産科学的異常(表10)

里帰りに利用する交通機関としては自家用車が63.7%と最も多く、次いで鉄道41.1%、飛行機14.5%となっている。

自家用車やバス、タクシーを利用する妊婦に妊娠異常が多い傾向がみられるが、これらの交通機関を利用する場合は、比較的短時間で里帰りをする事が多いのではないかと考えられ、そうした場合には先に述べたように、多少の危険を犯しても里帰りをしてしまうことが多いのではないかと推測される。

4) 里帰りの時期と産科学的異常(表11)

里帰りの時期としては、妊娠34~36週が33.2%と最も多く、次いで妊娠36週以降31.3%、妊娠32~34週18.8%の順となっている。

妊娠32~34週に里帰りする群では、全般的に産科学的異常が多く、妊娠30~32週群でも妊娠異常や新生児異常が多くみられる。逆に、本来産科学的異常がおりやすいと考えられている妊娠36週以降に里帰りする群では、全般的に産科学的異常が少ない傾向がある。その理由として、妊娠30~34週頃は妊娠が比較的安定している時期であるため、医師と妊婦双方に油断があること、その逆に、妊娠36週以降では、妊娠経過に異常があった場合は里帰りを中止させる努力が払われているのではないかと推測される。

5) 前医の最終受診から里帰りするまでの期間と産科学的異常(表12)

前医を受診してから里帰りをするまでの期間は、1週間以内が52.9%と最も多く、75%以上が2週間以内に里帰りをしている。しかし前医を受診してから1ヶ月以上たってから里帰りをしているものも6.3%おり、そうした群では妊娠異常が61.8%と非常に高率に合併している。

6) 里帰り後、受診までの期間と産科学的異常(表13)

里帰りをしてから里帰り先の病・医院を受診するまでの期間は、1週間以内が69.4%と最も多く、85%以上が2週間以内に受診している。しかし、里帰りをして1ヶ月以上たってから受診するものも3.9%おり、そうした群では、妊娠異常が高率に合併している。

7) 里帰り分娩の予約状況と産科学的異常(表14、表15)

表14、15のとおり、何らかの形で里帰り先の病・医院に予約をしているものは61.7%で、そのうちの71.3%が妊娠30週までに予約を行っている。しかし、表14のとおり、全く予約なしに里帰り先の病・医院を受診するものも23.0%おり、こうした群では、分娩時異常と新生児異常がやや多い傾向にある。

8) 前医の了解・紹介状の有無と産科学的異常(表16)

里帰り分娩をしたもののうち、紹介状を持参したものが63.5%、前医の了解は得たが紹介状は持参しなかったものが14.9%で、78.4%が前医の了解を得たと回答している。1980年の日母の調査¹⁾(前医の了解を得たもの77.4%、紹介

状を持参したものの31.3%)と比べると、紹介状を持参する割合(医師が紹介状を書く割合)が急増していることがわかる。

紹介状を書いてもらった群に妊娠異常が比較的多いが、これは、里帰りをする前の妊娠異常についても紹介状に記載されているためと考えられる。また、前医に相談せずに里帰りをしてしまった群(8.1%)に、新生児異常が比較的多くみられる。

4. 帰宅時期(表17、表18)

里帰り先から自宅へもどる予定の時期は、表17のとおり1ヶ月検診をうけてから(すなわち分娩後1~2ヶ月の間)とするものが81.1%と非常に多い。追跡調査の結果でも、表18のとおり分娩後4~8週に自宅へもどったものが64.9%と多く、同様の結果が得られている。

5. 里帰りの全期間(表19)

里帰りをしてから再び自宅に帰るまでの里帰りの全期間は、8~12週が41.2%と最も多く、次いで12~16週25.9%、4~8週17.1%となっている。

6. 里帰り分娩と母子保健

1) 母乳栄養率(表20)

分娩後3ヶ月までの母乳栄養率は、里帰り群50.4%、非里帰り群53.5%とほとんど差はなかった。

2) 児の身体発育

昭和55年乳幼児身体発育調査(厚生省)を利用して、里帰り群と非里帰り群における児の体重と身長が発育程度を比較した。

①身長(表21):身長が90パーセントイルよりも大きい児は里帰り群12.3%、非里帰り群15.9

%で、10パーセントイルよりも小さい児は里帰り群14.0%、非里帰り群10.0%と里帰り群の方がやや身長が低い傾向がみられる。

②体重(表22):体重が90パーセントイルよりも重い児は、里帰り群12.7%、非里帰り群17.1%で、10パーセントイルより軽い児は、里帰り群4.8%非里帰り群3.5%と里帰り群の方がやや体重が軽い傾向がみられる。

上記の結果から判断すると、里帰り群は非里帰り群に比べて身体発育の程度がやや劣る傾向があると考えられる。

3) 児の罹患率(表23)

分娩後1年以内に罹患した疾患としては、里帰り群、非里帰り群ともに、かぜ・突発性発疹・おむつかぶれ・あせも・下痢が多く、全体的にみて里帰り群の方が罹患する割合が比較的高い傾向にある。

4) 母体の健康状態(表24)

分娩後1年間の母体の健康状態、里帰り群と非里帰り群とでは大きな差はないが、医師を訪ねたものが里帰り群13.6%、非里帰り群7.6%と里帰り群が比較的多い傾向にある。

7. 里帰り分娩と家庭保健

1) 夫と義父母の意見(表25)

里帰り分娩に対する夫と義父母の意見はそれぞれ賛成81.1%、72.8%、反対1.5%、2.3%であり、里帰り分娩をする場合、家族の反対はほとんどないと考えられる。

2) 夫との連絡の頻度(表26)

里帰り分娩中、42.7%は夫と毎日、36.8%は2~3日おきに連絡をとりあっていたと答えている。少なくとも1週間に1度は連絡をとりあ

っていたものまで含めると90%以上になり、里帰り中は夫と頻りに連絡をとりあっていたことがわかる。

3) 緊急連絡 (表27)

帝王切開などの緊急時、78.6%が1時間以内に夫と連絡をとれたと思うと答えており、ここでも夫との密な連絡がかなり保たれていることが示唆された。

4) 児に対する夫のとまどい (表28)

里帰り分娩では、産後かなりの日数を経てから突然子供が家庭の中に入ってくるため、夫がとまどう割合が高いのではないかと予想されたが、里帰り群と非里帰り群で大きな差は見出されなかった。

5) 父性意識 (表29)

父親としての自覚が強くなる時期は、里帰り群では、分娩前から30.7%、分娩後1週間以内が11.8%で、非里帰り群ではそれぞれ39.4%、14.7%であった。また、分娩後1ヶ月以上たってからと答えたものが、里帰り群34.2%、非里帰り群26.5%であり、明らかに里帰り群では父性意識の確立が遅れる傾向にある。

6) 分娩後の夫婦関係 (表30)

分娩前後の夫婦関係について、分娩前とかわりなかったと答えたものが、里帰り群77.2%、非里帰り群70.0%で、うまくいかなくなってしまうと答えたものが、里帰り群7.0%、非里帰り群8.2%であった。両者に大きな差はなく里帰り分娩が夫婦関係に与える影響はあまり大きくないと考えられる。

8. 里帰り分娩と精神衛生

里帰り分娩に対して、とくに不安を感じていないものが52.5%と最も多く、次いで夫の面倒をみる人がいなくなることに對して心配を抱くものが27.4%と多い。医師や助産婦が代わることに對して不安を抱くものは11.0%、産科学的異常が増加するのではとの不安を抱くものは3.1%と低く、医学的な面での不安を抱くものは少ないことが示唆された。

2) 育児不安 (表32)

多少とも育児不安を抱いていたものは、里帰り群48.7%、非里帰り群41.6%と里帰り群にやや多い傾向がみられるが、大きな差は認められない。

3) 両価性の感情 (表33)

褥婦は生まれてきた子供を愛しているにもかかわらず、それに相反する嫌悪感や敵意などの感情を同時に持つことがあるといわれている。こうした両価性の感情をもつ割合が里帰り群12.4%、非里帰り群19.5%と里帰り群にやや少ない傾向がみられ、里帰りが母体の精神的安定により影響を与えていることが示唆される。

9. 里帰り分娩と社会制度

1) 分娩後の母子ホーム (表34、表35)

里帰り分娩をしたものに、分娩後の母子ホーム(分娩後しばらく、母体や新生児、さらには上の子の面倒をみる施設)について質問したところ、あった方がよいと思うという意見が81.4%を占めたが、たとえあったとしてもやはり里帰り分娩をしたと思うという意見も79.9%を占め、少なくとも現在の段階では、分娩後の母子ホームを設立しても里帰り分娩が減少する可能性は低いと考えられる。

1) 里帰り分娩に対する不安と心配 (表31)

2) 夫の協体制 (表36)

夫の協体制 (夫の育児休暇や勤務時間の短縮などの制度) があれば、里帰り分娩をする必要はなかったと思いますかという質問に対して必要はなかったという意見が46.9%で、やはり里帰り分娩をしたと思うという意見31.3%を大きく上回っている。

里帰り分娩を減少させるためには社会制度としての夫の協体制の早急な確立が望まれる。

10. 里帰り分娩に対する医師の対応

1) 前医からの注意 (表37)

里帰りについて、前医からの注意はありましたかとの質問に対して、とくに注意はなかったという回答が60.1%と半数以上を占めている。医師の側から、もっと積極的に里帰り分娩についての注意を伝える必要があると思われる。

2) 里帰り分娩に対する意見 (表38)

里帰り分娩に対して、妊娠異常の有無にかかわらず賛成または賛成も反対もしないという医師が44.2%とほぼ半数に近い。逆に、妊娠異常の有無にかかわらず反対という医師も9.9%おり、個々の妊婦に適した対応の仕方があまりなされていないのが実状である。

3) 紹介状 (表39、40)

里帰り分娩を希望する妊婦に対して、81.7%の医師が妊娠異常の有無にかかわらず紹介状を書くことと答えており、しかも紹介状を書く医師の87.9%が専用の紹介状を使うと答えている。里帰り分娩では、一貫した保健指導が行われないことが医学的に大きな問題であったが、このように、多くの医師が専用の紹介状を使って連絡

をとり合えば、里帰り分娩に伴う分娩時の異常はかなり減少するのではないかと考えられる。

4) 紹介状などに記載する内容 (表41)

紹介状や母子手帳に付記するものとしては、HB抗原、梅毒反応、血液型、血算が多く85%以上の医師が付記しているが、HTLV-Ⅲ、HTLV-Iについてはまだあまり一般的には調べられていないのか、付記する割合は低い。

IV 結論

里帰り分娩では、産科学的異常が比較的多くの児の身体発育や父性意識の確立などにも問題がある。しかし、現在、里帰り分娩は増加・拡大傾向にあり、こうした傾向は将来的にも続くことが予想される。

このように医学的・社会的に多数の問題をかかえている里帰り分娩を減少させるためには、妊婦の教育や社会制度の充実などが重要であるが、その実現と効果の出現にはかなり時間がかかるとと思われる。このような現状のもとでは、里帰り分娩の減少をはかりながらも、危険を回避してより安全に里帰り分娩がなされるように努力をしなければならない。そのためには、医師の側の意識改革も重要であり、潑然と里帰り分娩を許可または禁止するのではなく、今回も含めた過去の調査結果を参考にして、個々の妊婦に適した対応をする必要がある。

V 文献

- 1) 日本母性保護医協会・里帰り分娩の状況とその対策について、昭和58年2月。
- 2) 藤原篤他・旅行の妊娠・分娩・胎児に及ぼす影響、妊婦管理の改善による胎児障害防止に関する研究報告書、昭和57年度・厚生省。

表1 里帰り分娩の頻度

| | 大学病院 | 一般病・医院 |
|--------|-------------|--------------|
| 里帰り分娩 | 86 (13.9%) | 452 (13.2%) |
| 非里帰り分娩 | 532 (86.1%) | 2979 (86.8%) |
| 合計 | 618人 | 3431人 |

表2 里帰り分娩の増減傾向

| | 総分娩数 | 里帰り分娩数 |
|-------|------|------------|
| 1984年 | 720 | 67 (9.3%) |
| 1989年 | 618 | 86 (13.9%) |

表3 妊娠中の異常 (複数回答)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|---------|------|------|
| 特に無し | 53.4 | 54.1 |
| 切迫流・早産 | 8.4 | 13.2 |
| 頸管無力症 | 0.6 | 1.7 |
| 貧血 | 25.1 | 23.5 |
| 妊娠中毒症軽症 | 8.7 | 7.5 |
| 妊娠中毒症重症 | 0.4 | 0.9 |
| 羊水過多症 | 0 | 0.6 |
| 前置胎盤 | 0.6 | 0.5 |
| 子癇 | 0 | 0.05 |
| IUGR | 2.6 | 2.2 |
| 胎盤機能不全 | 0.6 | 0.8 |
| 潜在性胎児仮死 | 0.4 | 0.7 |
| 多胎妊娠 | 0.6 | 0.7 |
| その他 | 7.8 | 7.1 |

表4 胎位異常

| | 里帰り群 | 対照群 |
|------|------|------|
| 頭位 | 97.0 | 96.1 |
| 骨盤位 | 3.0 | 3.6 |
| 横・斜位 | 0 | 0.3 |

表5 分娩異常

| | 里帰り群 | 対照群 |
|--------|------|------|
| 正常頭位分娩 | 80.8 | 81.1 |
| 骨盤位分娩 | 1.9 | 1.5 |
| かん子分娩 | 0.2 | 0.3 |
| 吸引分娩 | 7.2 | 7.1 |
| 帝王切開 | 8.0 | 9.3 |
| その他 | 1.9 | 0.7 |

表6 分娩時の異常 (複数回答)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|----------|------|------|
| 特に無し | 58.2 | 63.7 |
| 前期破水 | 12.5 | 9.2 |
| 微弱陣痛 | 10.4 | 7.4 |
| 回旋異常 | 3.2 | 1.8 |
| 軟産道強靱 | 5.4 | 5.0 |
| 遷延分娩 | 3.3 | 2.3 |
| 胎児仮死 | 5.9 | 4.9 |
| 前置胎盤 | 0.4 | 0.6 |
| 胎盤早剥 | 0.4 | 0.4 |
| 子癇 | 0 | 0.1 |
| 臍帯脱垂 | 0 | 0.2 |
| 子宮破裂 | 0 | 0.1 |
| 頸管裂傷 | 2.4 | 1.7 |
| 弛緩出血 | 2.4 | 2.9 |
| 出血>500ml | 7.4 | 3.9 |
| 産科ショック | 0 | 0.3 |
| CPD | 2.4 | 1.5 |
| その他 | 4.1 | 4.1 |

表7 産褥時の異常 (複数回答)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|------|------|------|
| 特に無し | 95.7 | 97.2 |
| DIC | 0 | 0.1 |
| 産褥熱 | 0.9 | 0.1 |
| 子癇 | 0 | 0.03 |
| 肺水腫 | 0 | 0.03 |
| 縫合不全 | 0.4 | 0.4 |
| その他 | 3.0 | 2.2 |

表8 新生児の異常 (複数回答)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|-------------|------|------|
| 特に無し | 81.4 | 81.3 |
| 新生児死亡 | 0 | 0.2 |
| 新生児仮死 | 2.0 | 1.7 |
| 新生児高ビリルビン血症 | 9.5 | 7.1 |
| 痙攣 | 0 | 0.1 |
| RDS | 0.2 | 0.3 |
| 真性メレナ | 0.6 | 0.1 |
| 低血糖 | 0.2 | 0.5 |
| 貧血 | 0 | 0.1 |
| 奇形 | 0.4 | 0.9 |
| 低出生体重児 | 4.8 | 4.9 |
| 巨大児 | 1.3 | 1.7 |
| その他 | 2.6 | 2.6 |

表9 里帰りに要した時間と異常

(%)

| | 人数 | 妊娠異常 | 胎位異常 | 手術分娩 | 分娩時異常 | 産褥異常 | 新生児異常 |
|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 2時間未満 | 27.1 | 46.3 | 1.4 | 10.2 | 37.4 | 3.4 | 18.4 |
| 2-4時間 | 37.4 | 44.8 | 2.0 | 18.7 | 44.3 | 4.4 | 15.3 |
| 4-6時間 | 20.1 | 33.9 | 2.8 | 26.6 | 41.3 | 2.8 | 22.0 |
| 6-8時間 | 7.2 | 33.3 | 2.6 | 18.0 | 30.8 | 2.6 | 28.2 |
| 8時間以上 | 6.3 | 44.1 | 5.9 | 26.5 | 41.2 | 5.9 | 14.7 |
| 無回答 | 2.0 | - | - | - | - | - | - |

表10 里帰りに利用した交通機関(複数回答)

(%)

| | 人数 | 妊娠異常 | 胎位異常 | 手術分娩 | 分娩時異常 | 産褥異常 | 新生児異常 |
|------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 鉄道 | 41.1 | 35.9 | 0.9 | 22.0 | 40.4 | 3.1 | 16.6 |
| 自家用車 | 63.7 | 46.8 | 2.3 | 18.8 | 41.9 | 4.0 | 19.9 |
| バス | 7.6 | 48.8 | 4.9 | 31.7 | 46.3 | 2.4 | 17.1 |
| タクシー | 10.5 | 43.9 | 5.3 | 26.3 | 47.4 | 0 | 21.1 |
| 航空機 | 14.5 | 38.0 | 3.8 | 21.5 | 48.1 | 2.5 | 20.3 |
| 船 | 1.7 | 44.4 | 0 | 22.2 | 11.1 | 0 | 22.2 |
| その他 | 1.1 | 50.0 | 16.7 | 33.3 | 50.0 | 0 | 33.3 |

表11 里帰りの時期と産科的異常

(%)

| | 人数 | 妊娠異常 | 胎位異常 | 手術分娩 | 分娩時異常 | 産褥異常 | 新生児異常 |
|----------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 妊娠30週未満 | 6.8 | 40.5 | 2.7 | 21.6 | 43.2 | 2.7 | 10.8 |
| 妊娠30-32週 | 5.5 | 60.0 | 3.3 | 26.7 | 33.3 | 3.3 | 23.3 |
| 妊娠32-34週 | 18.8 | 50.0 | 2.0 | 25.5 | 46.1 | 5.9 | 20.6 |
| 妊娠34-36週 | 33.2 | 37.2 | 3.3 | 21.7 | 40.3 | 2.8 | 17.2 |
| 妊娠36週以降 | 31.3 | 40.6 | 1.2 | 10.0 | 37.1 | 3.5 | 19.4 |
| 無回答 | 4.4 | - | - | - | - | - | - |

表12 前医最終受診から里帰りまでの期間

(%)

| | 人数 | 妊娠異常 | 胎位異常 | 手術分娩 | 分娩時異常 | 産褥異常 | 新生児異常 |
|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 1週間以内 | 52.9 | 44.6 | 2.8 | 22.3 | 44.3 | 3.8 | 17.1 |
| 2週間以内 | 24.0 | 34.6 | 1.5 | 13.8 | 33.8 | 4.6 | 18.5 |
| 1ヶ月以内 | 8.3 | 42.2 | 0 | 22.2 | 48.9 | 4.4 | 26.7 |
| 1ヶ月以上 | 6.3 | 61.8 | 0 | 11.8 | 32.4 | 0 | 19.6 |
| 無回答 | 8.7 | - | - | - | - | - | - |

表13 里帰り後、受診までの期間

(%)

| | 人数 | 妊娠異常 | 胎位異常 | 手術分娩 | 分娩時異常 | 産褥異常 | 新生児異常 |
|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 1週間以内 | 69.4 | 44.3 | 2.1 | 19.1 | 41.4 | 3.4 | 19.6 |
| 2週間以内 | 17.1 | 37.6 | 1.1 | 22.6 | 44.1 | 5.4 | 15.1 |
| 1ヶ月以内 | 2.2 | 41.7 | 0 | 16.7 | 41.7 | 0 | 8.3 |
| 1ヶ月以上 | 3.9 | 52.4 | 4.8 | 14.3 | 38.1 | 0 | 19.0 |
| 無回答 | 7.4 | - | - | - | - | - | - |

表14 里帰り分娩の予約法と産科的異常

(%)

| | 人数 | 妊娠異常 | 胎位異常 | 手術分娩 | 分娩時異常 | 産褥異常 | 新生児異常 |
|---------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 予約のため受診 | 47.0 | 43.1 | 1.6 | 17.3 | 42.7 | 5.5 | 17.3 |
| 電話・手紙 | 14.7 | 43.8 | 3.8 | 21.3 | 36.3 | 1.3 | 16.3 |
| 予約せず | 23.0 | 41.6 | 2.4 | 19.2 | 45.6 | 3.2 | 20.8 |
| その他 | 12.0 | 40.0 | 1.5 | 20.0 | 36.9 | 1.5 | 20.0 |
| 無回答 | 3.3 | — | — | — | — | — | — |

表15 里帰り分娩予約の時期と方法

(%)

| | 電 話 | 受 診 |
|--------|------|------|
| 30週未満 | 52.5 | 77.3 |
| 30-36週 | 17.5 | 9.8 |
| 36週以降 | 1.3 | 3.9 |
| 無回答 | 28.8 | 9.0 |

表17 帰宅予定時期

(%)

| | 人 数 |
|--------|------|
| 1ヶ月検診前 | 4.8 |
| 1ヶ月検診後 | 81.1 |
| 2ヶ月以上 | 11.2 |
| 無回答 | 2.9 |

表16 前医の了解・紹介状の有無と産科的異常

(%)

| | 人数 | 妊娠異常 | 胎位異常 | 手術分娩 | 分娩時異常 | 産褥異常 | 新生児異常 |
|------------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 相談せず | 8.1 | 38.6 | 2.3 | 15.9 | 38.6 | 2.3 | 27.3 |
| 止められた | 0.2 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 了解(+)紹介(-) | 14.9 | 38.3 | 1.2 | 14.8 | 39.5 | 3.7 | 16.0 |
| 紹介状持参 | 63.5 | 44.3 | 2.3 | 21.7 | 42.9 | 4.6 | 19.1 |
| その他 | 7.4 | 40.0 | 2.5 | 10.0 | 40.0 | 0 | 7.5 |
| 無回答 | 13.3 | — | — | — | — | — | — |

表18 帰宅した時期

(%)

| | 人 数 |
|--------|------|
| 2週未満 | 0.9 |
| 2-4週 | 7.5 |
| 4-6週 | 44.3 |
| 6-8週 | 20.6 |
| 8-10週 | 7.9 |
| 10-12週 | 5.3 |
| 12週以降 | 5.7 |
| 無回答 | 7.9 |

表20 母乳栄養率

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|-----|------|------|
| 母乳 | 50.4 | 53.5 |
| 混合 | 34.2 | 30.6 |
| 人工 | 14.5 | 15.9 |
| 無回答 | 0.4 | 0 |

表19 全里帰り期間

(%)

| | 人 数 |
|--------|------|
| 4週未満 | 2.6 |
| 2-8週 | 17.1 |
| 8-12週 | 41.2 |
| 12-16週 | 25.9 |
| 16週以上 | 12.3 |
| 無回答 | 0.9 |

表21 児の身長

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|----------|------|------|
| 90%タイル以上 | 12.3 | 15.9 |
| 10%タイル以下 | 14.0 | 10.0 |

表22 児の体重

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|----------|------|------|
| 90%タイル以上 | 12.7 | 17.1 |
| 10%タイル以下 | 4.8 | 3.5 |

表23 児の罹病率

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|-------|------|------|
| 無し | 5.3 | 12.4 |
| かぜ | 72.4 | 64.1 |
| おむつかぶ | 28.9 | 34.1 |
| あせも | 31.6 | 32.9 |
| とびひ | 3.5 | 5.9 |
| 下痢 | 25.9 | 24.7 |
| 嘔吐 | 11.8 | 11.2 |
| 肺炎 | 7.9 | 5.9 |
| 中耳炎 | 3.5 | 4.1 |
| 結膜炎 | 6.1 | 2.4 |
| 突発性発疹 | 51.3 | 47.6 |
| 手足口病 | 4.4 | 2.4 |
| ヘルペス | 0.9 | 0 |
| しょう紅熱 | 0 | 0 |
| 百日咳 | 0 | 0 |
| はしか | 1.8 | 1.8 |
| その他 | 17.1 | 23.5 |

表24 母体の健康状態

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|------|------|------|
| 健康 | 77.4 | 81.8 |
| 一時不良 | 7.9 | 10.0 |
| 不良 | 0.9 | 0.6 |
| 受療 | 13.6 | 7.6 |
| 無回答 | 0.88 | 0 |

表25 夫と義父母の意見

(%)

| | 夫 | 義父母 |
|---------|------|------|
| 賛成 | 81.1 | 72.8 |
| 反対 | 1.5 | 2.3 |
| どちらでもない | 12.9 | 18.0 |
| その他 | 2.5 | 4.1 |
| 無回答 | 2.1 | 2.7 |

表26 夫との連絡

(%)

| | 人数 |
|--------|------|
| 毎日 | 42.7 |
| 2-3日おき | 36.8 |
| 1週に1度 | 13.4 |
| 2週に1度 | 1.3 |
| 1ヶ月に1度 | 0.4 |
| ほとんどなし | 0.2 |
| その他 | 3.0 |
| 無回答 | 2.2 |

表27 緊急連絡

(%)

| | 人数 |
|-------|------|
| すぐに | 47.3 |
| 1時間以内 | 31.3 |
| 1時間以上 | 9.8 |
| 連絡とれず | 3.0 |
| その他 | 3.9 |
| 無回答 | 4.8 |

表28 夫のとまどい

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|-------|------|------|
| なし | 52.6 | 51.8 |
| 少しあり | 43.9 | 44.7 |
| 非常にあり | 1.3 | 2.9 |
| 半年以上 | 1.3 | 0 |
| その他 | 0 | 0.6 |
| 無回答 | 0.9 | 0 |

表29 父性意識

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|----------|------|------|
| 分娩前から | 30.7 | 39.4 |
| 分娩後1週間以内 | 11.8 | 14.7 |
| 分娩後1ヶ月以内 | 16.2 | 15.9 |
| 分娩後1ヶ月以上 | 34.2 | 26.5 |
| 分娩後6ヶ月以上 | 3.1 | 0 |
| その他 | 3.1 | 1.8 |
| 無回答 | 0.9 | 1.8 |

表30 夫婦関係

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|-------|------|------|
| 不変 | 77.2 | 70.0 |
| よくなった | 13.6 | 17.6 |
| 少し悪化 | 6.6 | 7.6 |
| 非常に悪化 | 0.4 | 0.6 |
| その他 | 0 | 3.5 |
| 無回答 | 2.2 | 0.6 |

表31 不安と心配(複数回答)

(%)

| 不安・心配の内容 | 人数 |
|----------------|------|
| 特に無し | 52.5 |
| 医師や助産婦が変わるので不安 | 11.0 |
| 産科異常の増加が心配 | 3.1 |
| 夫の日常生活が心配 | 27.4 |
| 夫の浮気が心配 | 1.0 |
| その他 | 5.0 |

表32 育児不安

(%)

| | 里帰り群 | 対照群 |
|-------|------|------|
| なし | 48.7 | 55.3 |
| 少しある | 42.1 | 39.4 |
| 非常にある | 6.6 | 5.3 |
| その他 | 0 | 0 |
| 無回答 | 2.6 | 0 |

表33 両性の感情

(%)

| 嫌悪/敵意 | 里帰り群 | 対照群 |
|-------|------|------|
| 全くない | 87.6 | 80.5 |
| 時々ある | 12.4 | 19.5 |
| いつもある | 0 | 0 |
| 無回答 | 0.9 | 0.6 |

表34 産褥ホームの必要性

(%)

| | 人 数 |
|---------|------|
| あった方がよい | 81.4 |
| 必要ない | 13.1 |
| その他 | 3.5 |
| 無回答 | 2.0 |

表35 産褥ホームがあれば
里帰り分娩をしなかったか

(%)

| | 人 数 |
|--------|------|
| しなかった | 14.7 |
| やはり、した | 79.9 |
| その他 | 3.3 |
| 無回答 | 2.0 |

表36 夫が休暇がとれれば
里帰り分娩をしなかったか

(%)

| | 人 数 |
|--------|------|
| しなかった | 46.9 |
| やはり、した | 31.3 |
| その他 | 8.9 |
| 無回答 | 12.9 |

表37 前医からの注意

(%)

| | 人 数 |
|----------|------|
| なし | 60.1 |
| 旅行に関する注意 | 11.1 |
| 帰宅後直ちに受診 | 21.9 |
| 産科異常がふえる | 1.5 |
| その他 | 5.4 |

表38 里帰り分娩に対する意見

(%)

| | 人 数 |
|----------|------|
| 反対 | 9.9 |
| 異常があれば反対 | 39.3 |
| どちらでもない | 38.8 |
| 賛成 | 5.4 |
| その他 | 5.6 |
| 無回答 | 6.0 |

表39 紹介状(1)

(%)

| | 人 数 |
|-------------------|------|
| 妊娠異常の有無にかかわらず書く | 81.7 |
| 妊娠異常がなければ書く | 0.9 |
| 妊娠異常があれば書く | 8.0 |
| 妊娠異常の有無にかかわらず書かない | 1.1 |
| その他 | 4.1 |
| 無回答 | 2.1 |

表40 紹介状(2)

(%)

| | 人 数 |
|--------|------|
| 名刺 | 4.6 |
| 葉書 | 0.9 |
| 専用の紹介状 | 87.9 |
| その他 | 6.6 |

表41 紹介状(3) (複数回答)

(%)

| | 人 数 |
|-----------|------|
| 記入せず | 2.2 |
| 血液型 | 88.6 |
| 血算 | 87.5 |
| 梅毒反応 | 90.7 |
| HB抗原 | 91.4 |
| トキソプラズマ抗体 | 50.0 |
| HTLV-I | 34.7 |
| HTLV-II | 8.8 |
| 風疹抗体 | 65.1 |
| 超音波断層法 | 53.7 |



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:里帰り分娩の頻度は13、3%でやや増加傾向にある。里帰り分娩群では、切迫流早産や帝王切開率は比較的少なく、分娩異常や新生児異常、児の低身長・低体重、易感染性が比較的多くみられ、明らかに父性意識の確立が遅れる傾向にある。また短時間で帰れたもの、比較的早期に帰ったもの、自動車を利用して里帰りしたものに産科学的異常が多くみられた。夫の育児休暇など、夫の協力体制が整っていれば里帰りをしなくてすむと答えたものが多く、社会制度の充実が望まれる。里帰り分娩に対する医師の態度では医学的・社会的判断によるものより、患者の希望にまかせるものが多く、個々の妊婦に適した対応の仕方が必要と思われる。